

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	飯田144号線整備事業	会計	一般会計	事業No.	580	施策順No.	44-014
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-11-7		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	21	終了	26

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	歩行者、通行車両、市役所来庁者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	市民数:人	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	安全で快適に通行できる						
	対象をどう変えるか	進捗率: % (当年度までの実施済額/全体事業費×100)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	
H21: 詳細設計の完了、H22: 物件調査				0.7	2	2	13	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		用地測量及び物件調査を完了し、目標を達成した。 (補正予算により予定した工事発注については、関連する庁舎整備事業の進捗について判断した上で繰越明許としている。)						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	市役所前国道交差点から知久町交差点までについて、国道から市街地中心部へのアクセスを改善し市街地の交通体系を確保するため、道路改良及び交差点の改良工事を実施する。市役所敷地へ隣接する道路となることから、来庁者の利便性向上と歩行者の安全を確保する。平成22年度から[道整備交付金]及び、合併特例債を導入し、平成26年の完成を目標とする。		
事業内容	市道飯田144号線 L=330m(市道1-16号箕瀬羽場坂線を含む)	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 用地測量 (A=15,700㎡)	1 用地測量	1 1式
	2 物件調査 (家屋調査 12棟)	2 物件調査	2 1式
	3 工事 (擁壁工:H22→H23繰越明許)	3 工事(擁壁工)	3 L=40m
23年度実施計画	1 用地取得 (A=930㎡)	1 用地取得	1 1式
	2 建物補償 (家屋移転2棟)	2 物件調査	2 1式
	3 工事 (擁壁工)	3 工事(擁壁工)	3 L=40m

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	17,500	10,553	75,000	特定財源内訳、補足事項
	一般財源	県支出金			73,300	
		起債			4,000	
		その他				
		計 (A)	35,105	21,105	152,300	
		正規職員所要時間		1,000		
		臨時職員等所要時間				
		人件費計 (B)		3,576		
		トータルコスト A+B		24,681		

(国)道整備交付金(1/2)
22→23繰越明許額14,000千円

4 事業に対する市民や議会の意見

庁舎周辺の道路は、朝夕の交通渋滞が顕著であり、道路改良を望んでいる。
庁舎計画と同時期の周辺道路整備として、今後の整備に注目している。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	
21年度決算と比べての効果額(千円)		効果額説明(算出根拠)、特殊要因	

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産、事業者が便利で安全に移動ができる。	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):46.7%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	羽場大瀬木線と市街地を結ぶアクセス道路として、また、庁舎整備を含めた庁舎周辺の道路整備として計画しており、開通により安全な交通が確保できる。		
	後期に向けた課題	庁舎整備事業との進捗を考慮しながら事業を進め、早期に安全な交通が確保できるようにする。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	地権者及び自治会等と整備計画に関する情報の共有を図りながら事業を進めてきており、事業の円滑な推進に努めた。		
	後期に向けた課題	庁舎整備事業及び道路事業の工事による、周辺地域への影響を最小限とするための方法について検討が必要。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	道路の設計においてコスト削減が図れる構造や使用材料について検討した。		
	後期に向けた課題	道路排水の構造や、排水ルートの検討によりコスト削減を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	市が整備する道路であり市が関与する。		
	後期に向けた課題	市が整備する道路であり市が関与する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政 はどのような働きかけをしてきましたか、 又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	庁舎整備計画に合わせて道路整備が行われることから、地域の地権者や自治会等と整備について相談、協議を行って来ている。		
	後期に向けた課題	庁舎整備計画と合わせて道路整備が行われることから、引き続き、地域の地権者や自治会等と整備について相談、協議を行いながら事業を進める。		
全体を通じて	4年間の振り返り	庁舎整備事業と時期が重複することから、平成21年度より地域からの意見を聞きながら庁舎整備に合わせて道路整備が計画的に着工できるように進めてきている。		
	後期に向けた課題	道路整備だけではなく、庁舎整備も合わせた整備となることから、地域の協力が得られるように事業を進めていく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------